

EU科目名 Seminar Work (Case Study of EU Law)

開講大学での科目名 総合演習 (EU 法判例研究)

開講大学・学部 大阪大学大学院法学研究科

単位数 2単位

担当教員 アルブレヒト・ロessler (イルメナウ工科大学法学研究所研究員)

時限 前期 (集中講義) 7月23日～8月10日の間に15回 (詳細は別掲)

教室 文・法・経済学部研究講義棟4階 法第42番教室

### 授業のテーマと目標

(サブタイトル) EUメディア法入門

この授業では、EUにおける報道・視聴覚メディアに関する法的枠組みを、EC法の第1次法、第2次法、欧州人権条約、欧州基本権憲章をもとに、概観する。法制度や法手続については、欧州司法裁判所と欧州人権裁判所の判例から説明される。さらに、EUの報道・視聴覚メディア分野での最近の政治的、社会・経済的な動向の検討にも重点を置く。参加者には、この分野に関する英語の専門用語についての知識を習得し、習熟する機会も与えられる。

### 授業内容の要旨と授業計画

1. Structural features and major trends in the EU's press and audiovisual markets. Comparison of national media systems in the EU (key data).
2. Primary and secondary sources of EC Law concerning the media (overview).
3. Freedom of expression and the media – the concept according to Article 10 European Convention on Human Rights (1950).
4. Genesis of Article 11 Charter of Fundamental Rights (Article II-11 EU Constitutional Treaty).
5. Media concentration: European competition law and national regulation to ensure media pluralism.
6. The “Television without Frontiers” Directive: Launch (1989) – Revision (1997) - Modernisation (2006).
7. Public Service Broadcasting and European Law.
8. ‘Europeanizing’ the national public spheres by media?
9. Directive on electronic commerce (2000/31/EC)

10. Directive on privacy and electronic communications (2002/58/EC),  
amended by Directive 2006/24/EC.

11. Outline of the EU's policy for the information society

### 教科書・参考書

特に指定しない。日英の用語リストを含むプリントを授業で配布する。

### 履修上の注意

メディアについて法的、政治的、文化的、社会・経済的な側面からの関心、EUの組織構造についての基礎知識があり、英語の読解力、基本的なコミュニケーション能力があることが望ましい。

### 成績評価方法

成績は出席、受講態度により判断する。必要に応じ、確認テストを行うことがある。

### 学生へのメッセージ

授業は英語で行われる。この講義に関するご質問は、大阪大学 EUIJ 関西事務局 (euij@osipp.osaka-u.ac.jp) まで、ご連絡下さい。